

人生は  
決まり  
文句で

アイヌ アナクネ ピリカ  
aynu anakne Pirka

佐々木 利和 (ささき としかず)

本館先端人類科学研究部



ミンバク オッタ カムイノミ  
民博 で 神祈り (2007年11月 於民博前庭)

## アイヌ研究を通して

アイヌ口承文芸の研究で知られる、萩中美枝さんに『アイヌ文化への招待』という好随筆集がある。萩中さんはアイヌ語学者知里真志保氏の奥様であられた。そんな関係もあつてか、この随筆集には

知里氏とのさまざまな思い出を綴った一節がある。

標記のアイヌ語はそのなかに見えることばである。

アイヌ アナクネ ピリカ aynu anakne Pirkaとは「アイヌ・は・うつくしい」という謂である。旧制第一高等学校

校時代、知里氏はその出自ゆえにさまざまな悩みを抱いていた。そのころの日記に見えるという「アイヌは呪われている……」の一条は強烈である。アイヌの形質的な特徴が大きな負担となつてのしかかる。そして自分の意思や思いとは関係なくふりかかる差別と偏見(残念ながら現在もある)。

萩中さんという。シヤモ(和人)による「同化はことばをうばい、アイヌがアイヌの神に祈ることを忘れさせた」と。そして「アイヌ アナクネ ピリカ」は知里氏が「自分のアイヌ研究を通して、アイヌ研究のなかでいたかったのだ」とも。

## 人間・は・うつくしい

ひるがえつて、昨年九月には国連総会で先住民の権利に関する国連総会決議が採択され、本年六月には衆・参両院本会議でアイヌ民族を先住民とすることを求める決議が全会一致で採択されている。そしてその決議の下、内閣官房に「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」が設けられている。

その第二回、北海道ウタリ協会理事長の加藤忠委員は報告のなかで、人間文化研究機構に触れ、民博を除いては「アイヌ民族関連の研究スタッフがおらず：人間文化を取りあつかうのであれば、同じ人間のアイヌを仲間はずれに」せず、国家プロジェクトとしてとらえるべきであると述べられた。

加藤氏のこの指摘は重要である。いうまでもなく日本の人文・社会の学問体系のなかでアイヌは忘れられているといつていい。日本歴史研究においても、日本文学研究においても、日本語研究においてもアイヌの姿を認めることは困難である。学問の世界においてすらアイヌは差別されているのである。

アイヌの原義は神に対する人間である。知里氏が願つた「アイヌ アナクネ ピリカ」が本義の「人間・は・うつくしい」と読まれる日が本当に早くおとすれるように願つてやまない。